

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	他の地域の方々にももっと理解していただけるように、行事の参加の呼びかけをし伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後は保育園や学校、地域の行事などにも積極的に参加していき、交流を深めながら利用者の方にも喜んで頂ける機会を提供していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設管理者は隣組等に積極的に参加し、会議の場を通して認知症の理解を求めたり、当ホームに出来ることを問いかけている。	○	今後は老人会の集まりの中で、介護予防などの話しをしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価に取り組むようにし、外部評価の結果を全員が理解出来るように回覧している。改善計画シートを活用して、介護サービスの質の改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームの入居者の活動報告や取り組み、抱える問題点を報告している。そこでアドバイスをいただいた事項について取り組み、又、取り組んだ結果についての意見をいただき、介護サービスの質の向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1度運営推進会議を行っている。また市職員にホームの行事の案内をしたり、ホームでの取り組み等の相談を随時している。	○	ホームの行事は日曜日が多く、市の職員が来所出来ない状態であるため日曜日以外に行事を組むようにしていきたい。また、月1回発行しているホーム便りを市職員にも今後は配布していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は該当する入居者はいないが、職員間で学習して理解を深められるように努力していきたい。	○	定期的に行なうカンファレンスなどで、学習する機会を設けていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で資料を配布し、虐待防止に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>契約時や解約時には家族の方と話をする時間をもち、利用者や家族などの不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行っている。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>日頃から職員が利用者へ声をかけたり表情を観察しながら、意見や要望、不満などを聴くように努めている。また、運営推進会議に利用者代表として出席して意見を述べて頂いたり、相談苦情を出しやすいように「ご意見箱」を設置している。出された意見や苦情をスタッフミーティングで検討し合い運営に反映している。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>利用者の心身の状態が変化した場合に家族に連絡をしており、また、面会時等に日頃の状況を報告している。職員の異動や交替時はホーム便りに掲載している。金銭管理については各利用者のお子遣い帳を面会時に家族に見てもらっている。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>運営推進会議に家族代表として出席して頂き意見を述べてもらったり、ご意見箱などで意見を出していただき、それをスタッフミーティングにて話し合っている。また、職員を外した家族会を年2回開き、家族同士で意見苦情等を出して頂いている。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>毎月行われるミーティングには運営者・管理者も出席しており、各職員が意見を言いやすい環境を作り努めている。お互いの意見の交換をして、ホーム全体のサービスの質の向上に活かそうと努力している。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>入浴日や苑外レクリエーション、各行事の日などは職員を多く配置するなどの配慮を行なっている。話し合いはスタッフミーティングで行っており、柔軟な勤務調整を心がけている。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>止むを得ず異動や離職がある時は事前に利用者へ報告して、ダメージを最小限に抑えるよう心がけている。利用者が環境の変化に敏感であることを考えると、職員が安心して長く働ける職場づくりをしていきたい。</p>	○	原因の一つとして職員間のコミュニケーション不足が考えられるので、職員全員がお互いに自由に発言出来る職場にしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、年齢や性格等を採用条件にしていない。又各職員がその能力を活かせる環境作りに努めている。</p>	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>外部研修で学んだ内容に基づき勉強会を行っている。また日頃から利用者に対する言葉遣いには十分に留意しており、利用者を「人生の先輩」として接するように心がけている。</p>	
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>他事業所への研修及び必要とされる外部研修の参加を呼びかけている。参加した職員は会議で内容を発表して、職員全員が理解出来るようにしている。</p>	
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>職員を他事業所に研修に出したりして交流を図るように努め、自己研鑽のきっかけ作りとしている。</p>	
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年に何度か親睦会を開き、職員間のコミュニケーションが取れるよう図っている。</p>	
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員1人1人の特性を見出し、職員各々の長所を伸ばすことによって向上心を抱いてもらうようにしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用開始時は本人に会い心身の状態を確認し、希望などを傾聴している。また本人について家族との面談も行っている。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が困っている事、不安な事、求めていること等を理解し対応が出来るように話し合いを持っている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時に本人や家族の思い、状況等を確認して、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるように努力している。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所を利用していただきながらホームの雰囲気慣れて頂き、本人や家族が納得されたうえで契約をしてから介護サービスを提供している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の状況・情報を把握し、日常の暮らしを共に過ごすことによりお互いに必要とされている事を感じて頂いている。レクリエーションや行事等と一緒に参加することで、お互いに助け合える関係を作っている。	
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時や電話などで本人の心身の状態を伝え、理解して頂けるよう努力している。またケアプラン作成時には家族の思いも聴き、家族と職員と一緒に支援出来るように努めている。	
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時やサービス担当者会議時などで家族の思いを聞きながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごす時間を勧めたり、バスハイク等の行事に家族を誘い、より良い関係の継続を支援している。	
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を利用し、会いたい人や行きたい場所を把握し関係が途切れないように努めている。	
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日頃から利用者同士の会話の内容や表情、口調等を良く観察するように努めている。そして利用者各々に話を聞きながら意見の対立を緩和したり、孤立する人が出ないように食堂の座席の配置を考えたりユニットの変更等、随時配慮している。	
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	止むを得ず退所された方のご家族からの相談・要望には、出来る限り誠意を持って受け付けている。また必要と思われる場合は、状況に適したサービスの利用方法などを家族に分かりやすく説明して、安心して生活が出来るよう支援していくことに努める。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、本人の希望や意向の把握に努めている。又家族にも伝えて協力をお願いしている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、生活歴や家族に馴染みの暮らし方を聞き少しずつ把握に努めている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者1人1人と接して頂く中で、個々の1日の過ごし方や心身の状態、持てる力を把握出来る様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は本人の意見と家族の意見を聞くようにしている。又サービス担当者会議を開催して担当介護員や看護師、管理栄養士の意見も取り入れながら支援経過表を参考に、ケアプランを作成するように努めている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。入院などで心身の状態が変化した時などは本人や家族、その他必要な関係者とサービス担当者会議を開催し、新たな計画を作成するように努めている。	○	本人や家族の意見や思いをもっと聞き取れるように努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者1人1人ごとにその日1日の生活の様子を支援経過表に記入したものをサービス担当者会議に反映して、介護計画の作成に活かしている。また個々の食事・排泄・入浴・病院受診時の治療内容などを記録するファイルを作成しており、申し送りノートや業務日誌に記入して、職員間で情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じて、併設のデイケア施設のPTスタッフよりハビリ用具等を利用したマッサージや歩行訓練を受けて頂いたり、行事ではしようぶ湯入浴など大浴場を利用した支援を行なっている。またデイケアに馴染みの友人がいる利用者には希望時に友人の所まで案内したり、デイケアの行事(運動会や敬老会)に参加させてもらったりと、事業所の利点を活用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の方の協力を得て火災時を想定した避難訓練を行っている。又、公民館長、区長さんを行事等に招き運営に関し協力をお願いをしたり、運営推進会議には地域住民代表者に参加していただいている。運動会では地元の福祉大学より学生ボランティアの協力を得ている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスを利用している。また、利用者の身体状態に応じて車椅子や歩行器使用の検討を他事業者と行なっている。	○	ボランティアの協力の呼びかけや、他のケアマネジャーとの連携を図るよう努めていきたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は地域包括支援センターとの協働は実現されていないが、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業を利用する入居者が今後出てくる可能性があるため、協働の実現に努めたい。	○	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業が必要と思われる利用者には、地域包括センターと協力していきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医がいる場合は、状況に応じて職員が受診同伴・送迎を行ってかかりつけ医との信頼関係の構築に努めながら必要な情報提供を頂いて、本人及び家族の希望をかなえられるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化に向けて主治医・看護師・家族・職員などで早い段階から積極的に話し合いを持ち、終末期に向けた方針を共有出来る様にする。家族会や個人面談を利用して行なっていく。</p>
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉遣いや、介護サービス提供時は本人の自尊心や誇り、プライバシーを傷付けないように十分留意している。個人情報の使用に係わる同意書を本人や家族に交付して、署名・捺印を頂いている。ホーム内にも同規程を掲示している。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の心身の状態に合ったコミュニケーション手法を取って(難聴者には筆談など)日々の生活における希望を聞き、自分で決めたり出来るようにしている(食べたい物、お店での物品購入時など)。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の場所や入浴の時間、散歩の場所、買いたい物、食べたい物、レク活動の内容など、一人ひとりの希望に合わせて個別的な支援が出来るように努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容 美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の更衣・入浴後の更衣は自分で着たい洋服を選んで頂いている。自分で選べない利用者に対しても、季節や容姿に応じたふさわしい洋服を職員が選ぶようにしている。またお気に入りの理美容店に行けるように家族と協力している。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1度の料理レクと毎週日曜日のおやつ作りは、利用者に食べたい物を聴いてから献立を決めている。又利用者定期的に嗜好アンケートを行なっている。食事時も利用者の出来る力に応じてお茶入れや箸の準備、下膳、食器洗いなどをして頂いている。食事も利用者と職員と一緒に摂るようにしている。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	担当介護員は担当利用者の好物を把握するようしており、買い物レクと一緒に買いたい物を買に出かけている。お酒が好きな方には、誕生日会などの行事の日にお酒を出すなど、一人ひとりの好物を提供するように努めている。糖尿病などで摂取制限がある方には、医師と相談しながら好きな物が食べられるように支援していく。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンシートを活用して利用者個々の排泄リズムの把握に努め、適宜トイレへの声かけ・誘導をして安易にオムツを使用しないようにしている。排泄を失敗されてもさげなげない声かけや介護を心がけ、本人の自尊心を傷付けないように努めている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や曜日は本人が決めている。入浴を拒否された時は無理に勧めず、曜日や時間を変更するなどして、柔軟に対応している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	センター方式を利用しながら、昔からの本人の生活(睡眠)リズムが変わらない様に努めている。夜間は必要以上に訪室しないようにしたり灯りの調節に適宜目を配って、本人が安眠出来る様に心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式を利用して利用者個々の生活歴を把握して、持てる力に応じて食事作りや後片付け、洗濯物たたみ、ちり紙折り等をして頂いて、日々の生活に充実感を味わう事が出来るよう支援している。他にも好みに応じて散歩やレクリエーションを実施している。	○	料理レクなどにおいて、一人が独占してしまうことがないよう配慮していきたい。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の持てる力に応じてお金を所持して頂いている。又お金の所持が困難な方はホームで預かり、買い物時は本人にお金を手渡し、自分でお金を支払う事が出来るよう声かけ・見守りをしている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は本人の希望に合わせて外を散歩したり、1階の広場で日光浴が出来るよう支援している。また定期的に買い物レクリエーションに出かけている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員が積極的に本人の希望を尋ねながら、希望があれば家族に伝えて、家族の協力を得ながら行きたい所に出かけられるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族等に電話したいと申された時は、利用者の能力に応じて子機の電話機を貸したり、相手先の電話番号をダイヤルして相手呼び出して、楽しく会話出来るようにしている。手紙のやり取りもきちんと出来る様に支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者のお客様が訪ねて来られたらお茶等でもてなし、利用者と共に喜びや歓迎の意思を伝えるようにしている。帰られる際も「ありがとうございました」と御礼を必ず言うように職員全員で心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成しており、緊急止むを得ず必要最小限度の身体拘束を行う場合も、家族に説明書を交付して、署名・捺印を頂いている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は24時間鍵は掛けていない。そして昼間は階段のドアの鍵を開けている。又ドアマニュアルを作成してスタッフに伝えており、鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	その日のリーダースタッフは出来るだけホールから離れないように心がけており、居室の巡回も定時で行ない人員確認に努めている。支援経過表や業務日誌などの記録も利用者個々のプライバシーに配慮しながら、利用者がいるところで記入するようにして常に利用者の行動の把握をするように心がけている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者個々の持てる力に応じて、止むを得ず危険と思われる物(ハサミなどの刃物類)は預かるようにしている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行不安定な利用者の移動時は職員が見守り介助している。食事介助時はゆっくり確実にこなすようにしている。離苑にも十分に注意している。半年に1回消防署の協力を得て火災訓練をしている。日常的にも事故防止に取り組み定期的に勉強会をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎月のカンファレンスなどで、医師に随時応急手当や初期対応の方法を教えていただき、理解するように努めている。	○	今後は消防署に依頼して、AEDを使用しての応急手当などの訓練を行なっていきたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルや緊急連絡網を作成して、年2回消防避難訓練を行っている。日頃より近隣の方(地域住民代表者)に声掛けしてお互いに助け合っていくことを確認しており、避難訓練への参加も依頼している。飲み水や食料を3日間分非常用備蓄として用意している。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には入居時などにリスクケアマネジメントの話しをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝や入浴直前、帰苑時には必ずバイタルチェックを行い、異常時は速やかに看護師・医師へ報告している。職員間の申し送りも漏れがないように業務日誌や支援経過表に必ず記入している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを利用し、各人の処方箋を確認出来るようにしている。処方内容が変更になった場合は業務日誌や支援経過表に記録して、身体状態の把握に努めている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄パターンシートを利用し、排便のない人には運動や水分補給、食物繊維の多い食べ物を提供している。また食事摂取量の把握や気分不良の観察をして対処している。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分で出来る利用者には声掛け・見守りをし、出来ない利用者には身体状態に応じた介護を行って疾病の予防に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託先の管理栄養士が栄養計算された食事を提供しており、介護スタッフが食事摂取量や1日の水分補給量を記録している。水分摂取量が不足気味の方には水分補給を促がし、また毎月体重測定を行ない体重減少傾向の方は医師に相談して栄養補助食を適時提供している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	排泄介助や入浴介助、点眼介助等行なった後は必ず手洗い・消毒を行なっている。また感染症対策委員を決めてマニュアルを作成して、その内容に沿って実行している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	委託先の調理業者の厨房やホーム内の台所、調理用具などはこまめな洗浄・消毒を行なっている。他に衛生管理係を決めて、食中毒防止に心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花等を植えて親しみやすくしたり、ホームの名前が入った表札を飾っている。夜間は電灯を点けて安心して出入り出来るようにしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはプランターを飾っており、ベランダには観葉植物やお花を植えている。廊下には季節感を取り入れた利用者の作品(貼り絵や習字など)を飾り、居室にも直射日光が射さないように障子戸を設置している。食堂も広くスペースをとり、居心地よく過ごせるように工夫している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関入り口にはソファを配置し、自由に使えるようにしている。また、仲良しな方同士が食堂で隣の席に座れるように座席の配置を決めたり、自由にお互いの部屋を行き来出来るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスや椅子、テーブル、家族の写真立て、仏壇など長年使われて来た物や愛着のある家具類などを自由に持って来て頂けるようにしている。家具の配置などは本人の意向を取り入れており、居心地良く過ごせるように支援している。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度湿度計を利用し外気との差を少なくするようにしている。居室や食堂の清掃時などはこまめに換気をしている。空調のフィルターは毎月1回掃除している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム設計時に他の色々なホームや施設を見学し参考にして安全に生活が送れるように工夫している。手すりを設置したり段差を解消して、バリアフリー設計を基本としている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	センター方式を利用している。本人が混乱や失敗をしないように、本人の持てる力に合わせて個別支援をしている。またうまくいかない時は、職員で話しあって別の対応策を考えている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関やベランダにプランターを置き、利用者と職員と一緒に園芸を楽しめるように努めている。天気の良い日は建物の周りを散歩したり、1階の玄関前の広いスペースを利用して地元の祭りのお神輿を見物している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

グループホーム日の出では、利用者が安全に、安心して毎日を過ごせる事はもちろん、利用者一人ひとりの尊厳を大切に、利用者が自宅で過ごされていると同様に、ゆったりと、その人らしく過ごせることを第一に考えております。また、当事業所はデイケア併設の為に、理学療法士指導による身体リハビリを行ったり、デイケア利用者との交流によって地域の情報が得られることによる社会性の保持に役立っています。また、診療所が同敷地内にあり、医師・看護師との連携の下、身体の異変や病状悪化の防止に努め、緊急時には出来るだけ早い対応ができるように、全職員努力しております。